

「昭和」 炎上の連鎖。

春先の火災で、昭和初期に建てられた歴史的建造物が立て続けに焼失している。いづれも出火原因不明、保存公開整備中であった。

「100年に一度」の経済危機の現在、世界恐慌や戦争突入へと日本が混迷を深めた時代の文化的遺産焼失のニュースは、繰り返す歴史の重大なサインなのだろうか。（表参照）
出展/週間ポスト 410号 P146 『昭和』が消えてゆく』に転載されて短文案約

09年3月、一般公開期間中に起きた「旧吉田茂邸」焼失の衝撃的ニュースを受けて拾った断片的な記事から、「昭和の焼失」という一つの現象が見えてきた。

現在、出火原因の1位が放火であることを思えば、社会に不満を持つ誰かのマーケティング行為と対象が偶然に一致したのかもしれない。

歴史的建造物の寿命到来に伴う、熱心な価値論争。解体が保存か、その処分回答が全く別次元の第三者から突きつけられた「焼失跡地の保存」だったとしたら、自分ならば暫くの落胆の後、どのように行動するだろう。

私は古い建物に価値をつくる企画者である。問題提起すべき場所に実際に行き、その場所が使えるために必要なことを、微力ながら実際にやってみようと思う。（文/企画者、新藤）



時系列データ

被災昭和建築

- 05.01.04 午後6時頃、横浜山手聖公会(築昭和6)が放火により出火。J.H.モーガン設計、RC造2F.B1F.大谷石使用。前聖堂が関東大震災で倒壊、建替後に空襲で被災、昭和22に修復。
- 07.05.12 午前4:45頃、藤沢市「旧モーガン邸」(築昭和6)不審火で木造2階建の本棟280㎡焼失。米国人建築家J.H.モーガンの設計。
- 08.01.02 午前5:30頃、同邸2度目の出火により別棟、建具を保存していた増築部分、250㎡全焼。
- 09.02.14 未明、東京・杉並で「トトロの家」(築昭和4)が全焼。木造洋風の民家で、宮崎駿監督が著書の中で紹介、杉並区が購入し保存、公園として公開予定だった。
- 03.15 午前6時頃、横浜市で国重要文化財「旧住友家侯野別邸」(昭和14)が900㎡が全焼。昭和モダニズムの和洋折衷住宅と庭園を一般公開のため耐震改修中だった。
- 03.22 午前6時頃、大磯の「旧吉田茂邸」(築大正14)が全焼。総ヒノキ造奇屋風建築。敷地面積約1万坪。西部鉄道が現所有。2012年、県立歴史公園として公開協議中だった。

写真手前に看板あり。『本邸の火災焼失に伴い、当面の間この門を閉鎖させていただきますのでご了承ください。大磯町』

© Ryojikitansa Design フェンス越しの旧吉田茂邸。09.06.22